

「主人としもべ」

ルカの福音書 12:41～48

はじめに

「神の国、御国」とは何か、それは私たちの心に、霊に、たましいにあると言う人がいます。またそれは私たちの家庭や学校、職場、日常生活の中に、住んでいる地域に広げるものだという人もいます。またそれは教会だとか、死後の世界だとか言う人もいます。しかし聖書の原語であるヘブル語は本来こう定義しています。それは王の治める「王国」であると。そしてその王は神であると。神が王となられ、そこに民すなわちその王だけを自分たちの王とし、ただこれにのみ聞き従う人々がいる、その民とともに神が住まわれる、これが「神の国、御国」の正しい定義、正しい概念です。それは比喻でもたとえでも象徴的なものでもなく、字義通りの現実の国、国家という意味であり、天地創造の前から主はこれを計画され、その実現に向けて今もなお片時も休むことなく働いておられ、歴史を進めておられるのです。そのご計画について記されたものが聖書であり、しかしそれは多くの場合「神の国の奥義」として秘められています。今日もイエシュアについての御言葉から、その奥義に開かれてまいりましょう。これから後に起こることを示し、私たちをすべての真理に導いてくださる、御霊の助けによって。

ヨハネの福音書【新改訳 2017】

16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。

1. 忠実で賢い管理人

ルカの福音書【新改訳 2017】

12:41 そこで、ペテロが言った。「主よ。このたとえを話されたのは私たちのためですか、皆のためですか。」

12:42 主は言われた。「では、主人によって、その家の召使いたちの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で賢い管理人とは、いったい誰でしょうか。」

12:43 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。

12:44 まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せようになります。

ここで弟子のペテロと呼ばれたシモンがイエシュアに質問しています。これに対してイエシュアは答えではおられないように見えますが、その質問以上の答え、「神の国の奥義」を彼に伝えておられます。ここにたとえられている「忠実で賢い管理人」とはまさしくこのペテロのことであり、また彼をはじめとする十二使徒とも呼ばれる弟子たちに対する神のご計画がここには表されており、それはイエシュアによってこう預言され、約束されているとおりのものです。

マタイの福音書【新改訳 2017】

19:27 そのとき、ペテロはイエスに言った。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。それで、私たちは何をいただけるでしょうか。」

19:28 そこでイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界で、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めます。」

ルカの福音書【新改訳 2017】

22:28 あなたがたは、わたしの様々な試練の時に、一緒に踏みとどまってくれた人たちです。

22:29 わたしの父がわたしに王権を委ねてくださったように、わたしもあなたがたに王権を委ねます。

22:30 そうしてあなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食べたり飲んだりし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めるのです。

22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。

22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい。」

このように、いずれの記述もペテロすなわちシモンに対して語られており、それはイエシュアが「その栄光の座に着くとき、その新しい世界で」すなわち千年王国、メシア王国とも呼ばれる神の国、御国において、その中心となるイスラエルの十二部族の長として、ペテロをはじめとする十二弟子が選ばれているという真実が、そのような神の国の奥義が「主人はその人に自分の全財産を任せようになります」というたとえには表されており、御国においてイエシュアはこの十二弟子に神の宝の民、まさに神の全財産とも言える全イスラエルをお任せになる、という神のご計画がここに秘められているのです。この事実は「神の国」というものが決して象徴や比喻ではなく、今日にも見られる確固たる国、国家としての形態を持っており、それは公園で遊ぶ子どもたちのようなものでも、ショッピングモールに群がる大勢の買い物客のようなものでもなく「治める」とあるとおりに、権威とそれに従うという秩序が存在する「神の国、御国」とはまさに「国」であるということが示されているのです。しかもそれは今の日本のような民主主義つまり国民が主、人民が中心、人々が王というあいまいなはっきりしない権威の国家ではなく、絶対の権威を持ったただ一人の王が治める王国、王制国家です。そしてその王とは人ではなく神、正確には人となられた神であり、神の御子メシア、主イエシュアです。その御方がお選びになったこの十二弟子は、御国において「忠実で賢い管理人」となる、という神のご計画がここにあるということをぜひ覚えましょう。ですからイエシュアはこのペテロをはじめとする十二弟子を、ご自身が十字架にかかられるまでの三年半の働きに仕えさせるためだけでなく、また復活、昇天された後に今日の教会の基礎を造らせるためだけでなく、終わりの日の神のご計画の完成「神の国」が建てられ、それが維持継続、繁栄するまでを見据えた上で、まさに「神の国」を求めて、これが建てられるために必要なイスラエル十二部族を治めるその長として彼ら十二人を選ばれたということなのです。

このように、このたとえは今のこの地上でがんばったクリスチャンが御国でその報いを受けるというような類いのものではないのです。今あなたのその信仰が、奉仕が、働きが守られている、できているとし

それはあなたの努力によるものですか？そうではないでしょう。それでも「はい」と答える方に聞きます。その努力ができるのは、そのための健康や、時間や、衣食住が与えられているからではないのですか？それら全てを与えてくださっているのは神である主ではないのですか？ではあなたのその努力もがんばりもまた主からの賜物であり、あなたによるものではありません。確かに十二弟子はみないのちがけで福音を宣べ伝え、ほとんどの者が殉教の死を遂げました。しかし彼らのその働きが、生き様が主に認められて、その報いとして選ばれたわけではありません。彼らがそのような生涯を全うするよりも前に、まだ彼らがみな靈的に盲目で臆病で不信仰だった時に、イエシュアはこのように彼らを先に選んでおられたからです。実にその選びのゆえに、彼らはそのような宣教の働きへ、そして殉教の道へとつき動かされた、導かれたのです。まさにこう言われているとおりです。

ヨハネの福音書【新改訳 2017】

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

このように、神のご計画、神の選びに先立つものはありません。そしてその選びによる報い、成就是、今の世の權威や秩序のように私たちを窮屈にし、抑圧し、縛るようなものではありません。神の国のそれはこのように「あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるため」のものであることをぜひ覚えてください。ですから私はよく想像します。それは御国に入ったらあれをしよう、これをしよう、あそこに行こう、といろいろと思いつくことです。今のこの能力的にも肉体的にも時間的にも経済的にも制限だらけの状況ではとうてい叶わないことも、御国ならばすべて可能になるのです。なんてすばらしい、わくわくしてきますね。すると同時に、今思い通りにいかないことがあっても「ま、いっか」と思えてくるので感謝です。ですから皆さんもぜひ一緒に御国に思いを馳せ、御国にいる自分を思い描きましょう。御国が来ますように。

2. 不忠実なしもべ

ルカの福音書【新改訳 2017】

12:45 もし、そのしもべが心の中で、『主人の帰りは遅くなる』と思い、男女の召使いたちを打ちたたき、食べたり飲んだり、酒に酔ったりし始めるなら、

12:46 そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、不忠実な者たちと同じ報いを与えます。

12:47 主人の思いを知りながら用意もせず、その思いどおりに働きもしなかったしもべは、むちでひどく打たれます。

12:48 しかし、主人の思いを知らずにいて、むち打たれるに値することをしたしもべは、少ししか打たれません。多く与えられた者はみな、多くを求められ、多く任された者は、さらに多くを要求されます。

ここにたとえられているしもべは先ほどのそれとは対極に位置する存在です。主人は「**彼を厳しく罰し**」たとありますが、ここに使われているヘブル語はシャーサフ(שָׂרַף)といい、その初出箇所にして唯一の記述箇所は以下のものです。

I サムエル記【新改訳 2017】

15:32 サムエルは言った。「アマレクの王アガグを、私のところに連れて来なさい。」アガグは、喜び勇んで彼のもとに来た。アガグは「きつと、死の苦しみが去るだろう」と思ったのであった。

15:33 サムエルは言った。「おまえの剣が、女たちから子を奪ったように、おまえの母も、女たちのうちで子を奪われた者となる。」こうしてサムエルは、ギルガルにおいて主の前で、アガグを**ずたずたに切った**。

ここで「**ずたずたに切った**」と訳されているのがシャーサフです。むちで打つところではない凄惨な刑罰を指す意味であることがわかります。そのような悲惨な目にあう「アガグ」とは、エステル記においてはユダヤ人を根絶やしにしようとした「アガグ人ハマン」、そしてエゼキエル書や黙示録でイスラエルの敵として記されている「ゴグとマゴグ」とも結びつくようなサタンと獣、反キリストを指し示す名です。「空中の権威を持つ支配者（エペソ 2:2）」とも呼ばれる悪霊どものかしらサタンは今日、この世の支配者です。そしてアガグがアマレクの王、アガグ人ハマンは王の印をもつ権力者であったように、終わりの日に現れる獣、反キリストも絶大な権力を手に入れます。そして彼はイスラエルを根絶やしにしようとしたことを「**打ちたたき**」ます。なぜなら彼は神のご計画の中心がイスラエルにあることを知っているからです。これが「**主人の思いを知りながら**」従わないしもべにはたとえられているのです。この神に、イスラエルに敵対する世の終わりに絶大な権力を持って現れる獣、反キリスト、これをたとえてイエシュアはこう言われました「**多く与えられた者…多く任された者**」と。そしてこの者は「**多くを求められ…さらに多くを要求されます**」と言われました。ここに使われている「求める」という意味のダーラシュ(דָּרַשׁ)は本来、血の責任を問う（創世記 9:5）という報復、復讐を意味する言葉です。ちなみに「要求されます」と訳されているシャーアル(שָׂאָל)は死後の苦しみの場所である「よみ」と訳されるシェオール(שְׁאוֹל)の語源です。つまりこの世の権力をほしいままにする反キリストはまさに多く与えられ、多く任された**不忠実なしもべ**です。そして彼はダーラシュ、その血の責任を問われ、シェオール、よみに落とされるという事実がここには指し示されているのです。

そして「**主人の思いを知らずにいて、むち打たれるに値することをしたしもべ**」とは、イエシュアがメシアであるという真実から目が隠され、その主を十字架にかけて殺すという大罪を犯したユダヤ人、イスラエルの民です。彼らは世の終わりの大患難、反キリストによる迫害にさらされ、苦痛を味わいますが、その中で「**恵みと嘆願の霊**」により目が開かれ、メシアであるイエシュアを呼び求め、その苦しみから救い出されます（ゼカリヤ 12:10）。それが「**主人の思いを知らずにいて、むち打たれるに値することをしたしもべは、少ししか打たれません**」というたとえには指し示されているのです。

私たちのこの教会では長い間、このイエシュアのたとえにある御言葉から「私たちは多くの御言葉の奥義が開かれたのだから多くの働きをしなければならない」というようなメッセージを伝えてきました。ということは逆説的に言うとそれを行わなければ神の怒りを受け、厳しく罰せられる、すなわち「ずたずたに切られる」ということになってしまいます。これはとんでもない福音であり誤った解釈です。聖書を神

のご計画を記した預言書とし「神の国、御国」の福音を語る者として、今日、これまでの解釈を改めなければならぬと痛感しました。そもそも私たちは神のご計画について、御国について、神ご自身についてまだまだまだまだ知らないことだらけなのです。今与えられている神の国の奥義など大海のほんの一滴にすぎないのです。それを多く与えられた、多く任されたなどと、思い上がるにもほどがある…と自分を責めるのはこれくらいにして…。

終わりの日、この世界の権力を欲しいままにしたサタンの子、反キリストは、再臨のイエシュア・ハマシアハの前に、まさに大きな代償を支払うことになります。彼とそれに与したすべての者は生きたまま燃える火の池に投げ込まれるのです。こう預言されています。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

19:20 しかし、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちと、獣の像を拝む者たちを惑わした偽預言者も、獣とともに捕らえられた。この両者は生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。

福音とは良い知らせです。戦いにおいてそれは勝利の知らせ以外の何ものでもありません。そしてその勝利とはすなわち敵の敗北であり、そしてその敵を一人も逃がすことではなく、捕らえて牢やにぶち込むことです。ですからこの預言はまぎれもなく福音なのです。悪魔の支配が減び「神の国」だけが建てられ栄えるために絶対に実現しなければならない「御国の福音」です。多くを与えられ、多くを要求される不忠実なしもべ、このたとえは主イエシュアの勝利、御国の勝利を表した必ず成就する「御国の福音」なのです。